

藤内喜六先生の想い出

亀川町内蔵

土屋公照

藤内先生と初めて出会ったのは市内中学校社会科部会であった。

若い我々にも気さくに声をかけてくれる親しみのある先生で、自己紹介のとき内竈門うちかまどに住んでいることがわかると「竈門八幡の土屋さんかえ」「あんたところに八幡様の古文書があるはず。師範に行っているとき、屋敷祀りにみえたお父さんから古文書の話をして聞いた」と云われたが、私は見たことがなかった。昭和五十二年頃、家財の整理をしていると古文書・古記録が出てきて、先生の云っていたとおりだった。教師が地域の歴史を学び、日頃の授業に生かすことができると、生徒の興味・関心も深まり歴史好きの生徒がふえる……

ということで、先生より郷土の学習にひっぱりこまれたわけである。

歴史好きというより先生の人柄をしたって集まり「別府市中学校歴史研究会」を誕生させ、先生や入江秀

利先生を中心として「往来手形」なる題で郷土の歴史説明書発行、その他「近世地方条目」等の古文書を解説発行し、郷土学習の便を与えてくれた。

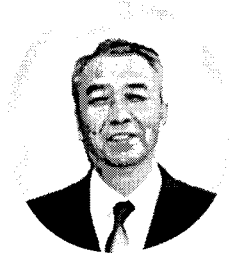
郷土史の勉強をしていると、投げ出したくなる度が度々あった。そんな時先生と電話で話をしたり、自宅におじやまして話をすると思議に意欲がわいてきた。歴史関係の仲間だけでなく職場の同僚も、先生の不思議な魅力に取り付かれ多くの教員が先生を慕っていた。

先生のご専門は考古学で、若いとき別府大学の賀川先生等と発掘に関わっていたが「穴ほりをしたタタリか大病をして」とのこと、主として近世史に取り組むようになった。同四十一年「寛永キリシタン塔」の論文を発表しキリシタン研究の先駆けとなった。また、入江先生と共著で数多くの古文書を解説、我々のために多くの資料を用意してくれた。

あまりにも若くしてのお別れ、悔やんでも悔やみきれない想いがする。ご存命であれば聞きたいことが山ほどあるのだが……

合掌

(元別府史談会理事)



藤内喜六氏